

今月の「未来へつなぐ」では、復興ボランティアセンターのこれまでの歩みをご紹介します。



発災当時、全国から駆けつけたボランティア

## 復興ボランティアセンターのあゆみ

2018年に発生した「北海道胆振東部地震」にともない、「安平町災害ボランティアセンター」が立ち上がりました。全国から延4,000人以上のボランティアが安平町で全戸訪問や住宅清掃、震災ゴミの回収等の作業を行っていただき、約2か月ほどで復旧作業は落ち着きを見せました。震災から1年半。現在は仮設住宅から新居や元の住宅への引っ越しの作業が中心となっています。

2018年11月、町民、行政、ボランティアを繋ぎ、復旧から復興へと町を盛り上げていく団体「安平町復興ボランティアセンター」が設立されました。「町に人が出歩かなくなり寂しい、町に元気と明るさを戻したい。」という声から始まった「ハシゴ酒シリーズ」は1年で6回も開催するほどの人気イベントに。



町を盛り上げるため、立ち上がった復興ボラセン

2019年11月には「集まる」「話し合う」「創り出す」の3つのコンセプトを持つコミュニティスペース「ENTRANCE」をJR追分駅前にオープン。平日は「フリースペース」として地域のママ



2019年11月  
ENTRANCE が追分駅前にオープン！

友やお年寄りのおしゃべり場や子どもたちの「遊び場」として無料で開放し、土・日曜日にも「1日限定のラーメン屋」などのイベントを定期的で開催しています。イベント参加者の8割以上が町民ということもあり、おかげさまでオープンから3か月で利用者数が延べ1,400人を超えました！本当にありがとうございます！

ENTRANCEイベント情報や営業日につきましてはLINEにて随時お知らせしていますので、興味があればぜひご登録ください！

## 復興ボラセン センター長 と 広報担当 の“今年度の抱負”



センター長 井内

D51ステーションが道内道の駅ランキング8位となりました。道路の復旧も進み、新年度からはときわキャンプ場や野球場も使えるようになります。

未だ収束が見えない新型コロナウイルスによる影響はありますが、震災時のピンチもチャンスに変えてきた安平町です。「未来は明るい」「自分たちのまちは自分たちがつくる」そういった気概を持ち、今年度も活動を進めていこうと思います。

（社）安平町復興ボランティアセンター 最後の一年です。どんな状況であっても前を向き、ともに自分たちのまちをつくっていきましょう!!



広報担当 台

昨年度からこの「未来へつなぐ」を書かせていただき、町の復興への動きや復興ボラセンの活動を掲載させていただいております！

今年度も町民の方へ「安平町の復興へ向けて、現在どのような活動が行われているのか。」を分かりやすくお伝えしていきたいと思っていますので、ぜひ見ていただけたら幸いです！復興ボラセン最後の一年。町民の方々と一緒に安平町を「震災前よりも魅力的な町」にしていきたいと思っています。

今年度もどうぞよろしくお願いたします！

記事提供  
編集・校正  
安平町復興ボランティアセンター

安平町復興ボランティアセンター  
安平町役場総務課情報グループ



（一社）安平町復興ボランティアセンター

TEL : 070-3139-0374

MAIL : abira.fukkouborasen@gmail.com